

## 第六章 父なる神

### I 第一位格としての御父

三位一体の神の第一位格は御父と呼ばれている。こう呼ばれるときの御父は三位一体の神全体を指すものではない。この三位一体の各位格の間には、御父が御子を遣わし、任命し、御子が聖霊を遣わし、任命するといった逆転できない関係があるので、御父は神学上、第一位格とされている。しかし、これはいかなる意味においても、御子、御霊の尊厳な神性を減少させるものではない。

神の父性に関する啓示の中には、四つの際立った面が見られる。(1) すべての被造物の父としての神、(2) 親しい交わりによる父なる神、(3) われわれの主イエス・キリストの父としての神、(4) イエス・キリストを救い主、主として信じるすべての者の父としての神である。

### II 被造物の父

三位一体の神が創造のみ業、被造物の保持に参加しておられるにもかかわらず、父なる神は特別な意味で全被造物の父であられる。

エペソ 3 : 14、15

ヘブル 12 : 9

ヤコブ 1 : 17

マラキ 2 : 10

I コリ 8 : 6

他、以上のような箇所では第一位格の神は全被造物の父であり、すべていのちを持つ被造物は、その起源をこの神に負っている。しかし、このことが普遍的救済の教理を裏付けるものではない。

### III 親しい交わりによる父

神は旧約聖書において、イスラエル、ダビデの家系を特別に顧みられたゆえに、父と子の関係として表されている。(出エジ 4 : 22、II サム 7 : 14)

神の父としての配慮は、神を自分たちの父として信頼するすべての者に及ぶことを神は宣言しておられる。(詩篇 103 : 13)

### IV われわれの主イエス・キリストの父

エペソ 1 : 3 には「私たちの主イエス・キリストの父なる神」として第一位格の神を紹介している。

この第一位格と第二位格の神の関係を考えるとき、第二位格の「御子」としての役割はある特別な時点(創造、受肉、バプテスマ、死、復活、昇天など)ではじまったとする立場があるが、誤りである。第二位格は「御子」として永遠に存在されるのであって、ある時点に始まりがあった訳ではない。(ヨハネ 3 : 16、イザヤ 9 : 6、コロサイ 1 : 15)

御父は私たちの主イエス・キリストの父であるという真理は、旧約聖書ではそれほど触れられていないが、新約聖書では最も一般的な教えのひとつである。

- 1、御子は御父から生まれたといわれている。
- 2、御父はイエス・キリストを愛する子として認められた。
- 3、御父は御子によって認められている。
- 4、父なる神がイエス・キリストの父なる神であることは人々によって認められている。
- 5、御子は御父に従うことで御父を認めている。
- 6、悪霊どもさえも御父と御子のこの関係を認めている。

## V キリストを信じるすべての者の父

すべての被造物の父なる神という概念と対照をなすのが、神はキリストを信じ、受け入れた者の特別な意味での父であるという真理である。

神が全被造物の父であるという事実は、すべての人の救いを確証するものでなく、永遠のいのちを保証するものでもない。キリストを信じ、受け入れたものだけが霊的な意味で神の子どもであると教えている。(ヨハネ 1：12、ガラ 3：26、エペ 2：1、3：15、5：1)

生まれつきの人間はすべてが神の子どもではないことが記されている(ヨハネ 8：44、マタイ 13：38、エペ 2：2、3)

神の子となることは人間の力ではできない。神の課せられた、ただ一つの条件(キリストを信じ、受け入れること)によってそのことをなして下さるのである。

われわれの天の父の愛と配慮の確約は、キリスト者にとって大きな慰めであり、信仰と祈りへの励ましである。